

長野県短期大学付属図書館所蔵和書のデータベース構築に向けて

To Construct the Database of Japanese Old Books of Nagano Prefectural College Library

常盤あかね Akane TOKIWA 柳沢磨三代 Masayo YANAGISAWA
平林 香織 Kaori HIRABAYASHI

1 はじめに

長野県短期大学は、1929年（昭和4年）に、善光寺に程近い地に開校した公立短期大学である。当初は長野県女子専門学校として発足し、その後、1950年に長野県短期大学として開学している。

『長野県女子専門学校長野県短期大学五十年史』（1979年、長野県短期大学）には、長野女子専門学校の設立について、以下のように記されている。いささか長くなるが、その冒頭部分から引用する。(1)

現在、長野県には八つの短期大学があるが、そのなかで唯一の公立短大である長野県短期大学は、戦後の学制改革によって1950年（昭和25）3月全国で最初に設立許可された数少ない短大の一つである。いち早く文部省から許可された最大の理由は、長野県女子専門学校が、その母胎となり設置基準を十分に満たしていたためである。

長野県女子専門学校が文部省から設立許可されたのは、1929年（昭和4年）3月であった。その設立許可申請は、その前年の第51回長野県通常県会（11月）における紆余曲折した議論の末、長野市からの寄付金10万円を新設の臨時費とする決議によったものであった。こうして1929年4月11日、あわただしく長野県女子専門学校の第1回入学式が長野県高等女学校（現在の長野西高）において挙行された。

1928、29年といえば、誰しも思うことは経済不況の深刻化、世界恐慌であろう。恐慌の波は長野県下にも押しよせ、わが国の輸出産業の花形として資本主義の発展を担ってきた生糸価格の大暴落によって、養蚕・生糸に依存する長野県民の生活の基盤が大きく崩れ始めた時期であった。県・市町村は財政が逼迫し、県は財政緊縮の方針で警察署の統廃合、県立学校の学級

整理、郡書記・県吏員の人事整理などを行うという事態に追いこまれていたのである。

世界恐慌の年、財政が逼迫していた県当局の本学設立に際しての苦労が並大抵でなかったことが行間から伝わってくる。開学の機運が高まる中で、当時の『信濃毎日新聞』（1929年1月20日付け）には、県の小西学務部長（当時）が文部省に赴いた後の、「女子専門学校について国文・国史を中心とした学校であれば、国民思想上にも好影響を与えるといふので西山専門学務局長なども賛成していた。（中略）教授と講師との関係、其他についても相当注文もあつたが、何れも予算の範囲内で実現できると思ふ、現在の専攻科を女子専門に編入する件もよいと承知してくれた」というコメントが掲載されている。このことから、本学が当初、国文学や国史を学び、国語科教員を養成することを主たる目的としていたことが理解される。さらに、本学設立の趣旨については同書において下記のように記述されている。(2)

公立の女子専門学校は、1930年で長野県女専も含めて6校にすぎなかったが、いずれも文学科をおき、これに家政学を加設するものなど、地方における高等女学校教育の普及発展に対応し「新中間層」以上の家庭子女の進学要求に応えるべく設立されたものであり、あきらかに「教養型」の高等教育機関であったといえることができる。

このようにして、国文・国史に重点を置いた教養型ともいべき女子の高等教育機関が設立されたのである。開学時には国文科のみが設立され、本科3年研究科1年の課程を経て、主として初等教育教員を養成したと上記『五十年史』には記載されている。第2次世界大戦勃発後、1941年には、軍事政権下の時局柄国文科の募集が停止され、国策に沿った実学

を学ぶ場として家政科が新設されている。

そのような本学草創期に、本学付属図書館所蔵和書の大半が収蔵された。

本学付属図書館には、1993年から国文学研究資料館の調査が入り、1998年3月までに136点の和書がマイクロフィルム化された。そのフィルムが同館に納められている。この調査に基づき、太刀川清氏は、『長野県短期大学付属図書館図書館だより』第2号において「所蔵和書について」と題して、次のように述べておられる。⁽³⁾

所蔵の和書は約300作品、1に漢籍、2に国語国文書、3に女子教育書である。『源氏』の写本、馬琴の『八犬伝』、一九の『膝栗毛』、種彦の『田舎源氏』など著名な江戸の小説や蕪村の『新華摘』、一茶の『おらが春』の俳書などがきれいな完本で揃っている。中でも特筆すべきは『女訓抄』『女鏡』『列女伝』などの女子教育関係のもの約70作の所蔵である。

この調査により、従来知られることのなかった本学付属図書館所蔵和書が日の目を見ることとなった。続いて、太刀川氏は、長野県短期大学「長野県短期大学付属図書館和書解題(一)」(『長野県短期大学紀要』第48号、1993・12)「長野県短期大学付属図書館和書解題(二)」(『長野県短期大学紀要』第49号、1994・12)において、本学付属図書館和書のうち国文学書と女子教育書の解題を公表している。

その労作により和書の内容についてはその一部が明らかにされたが、和書のタイトルのみが電子テキストになっているだけで、データベースとしてははなはだ不完全な状態である。そこで、本稿は太刀川氏の調査結果を踏襲しつつ、本学付属図書館所蔵和書の分類目録の電子データ化を目的として、和書のタイトル・読み・別名・分類を電子データ化(本論末尾に掲出)することで、検索可能な索引作りの基礎データとし、あわせて、本学付属図書館所蔵和書の構成の特徴について考察するものである。

湿度が低く乾燥した寒冷地であるという長野県の風土が好条件となったためか、全体に和書の保存状態は良好に保たれている。1995～2001年には帙のないものについて中性紙を使用した帙を作成し、ま

た、2005年からは長野県立歴史館の協力を得て燻蒸を行い、保存状態の維持に努めている。

なお、これらの和書は、長野県が有する貴重な文化資料であり、「長野県デジタルアーカイブ推進事業・信州デジくら」⁽⁴⁾の「長野県所蔵品アーカイブ」資料の一部として保存・公開することが、長野県当局によって検討されている。(2007年、「長野県デジタルアーカイブ」ワーキンググループが立ち上げられ、その活動を受けて翌2008年「長野県デジタルアーカイブシステム研究委員会」、それと並行して「長野県デジタルアーカイブ推進協議会」が設けられた。既存の県有資料群のほか、県民参加型のアーカイブスを構築するべく作業が始まり、一部公開されている。)

2 寄贈者布村安弘氏について

本学付属図書館所蔵和書は、点数総計591点、その内訳は、俳諧関係書21点、浄瑠璃関係書10点、国語国文学関係書111点、女子教育書62点、明治期の和本45点、漢籍342点である。

これらの和書の大半は、布村安弘氏の寄贈によるものである。布村安弘氏とはいかなる人物なのか。

太刀川氏は前掲「長野県短期大学付属図書館和書解題(一)」において次のように記している。⁽⁵⁾

本学付属図書館の所蔵に相当数の和書の女子教育書というべきものがある。これは本学の前身長野県女子専門学校で教鞭をとった故布村安弘氏の寄贈によるもので、(中略)伝え聞けば、氏は富山県の出身、京都大学を卒業。長野県女子専門学校着任はその創設期である。昭和5年(1930)の教員組織の中に教授としての名が見え、昭和7年には歴史地理の担当教授とある。在職は昭和16年8月まで、その後は遠く大陸の北京大学に転出されたという。

『長野県女子専門学校長野県短期大学五十年史』によると、布村安弘氏は創立メンバーの一人である(表1参照)。

職名	任学	科学位称号	氏名
助教授	家事・体操		
教授	歴史	文学士	中村清江
教授	国語	文学士	島崎乾太郎
教授	国語	文学士	山田ひさ江
教授	英語	文学士	土方辰三
教授	歴史・地理	文学士	布村安弘
教授	哲学・教育・美学	文学士	中村忠雄
教授	国語	文学士	風巻景次郎
学校長	修身	文学士	土屋幸正
職名	任学 <td>科学位称号</td> <td>氏名</td>	科学位称号	氏名
校医		医学博士	木村功
			延川
	国語		山崎藤林
	国語		伊藤達内
	国語		島田淑
	国語		松本昇
	音楽		古川とみ
	法制・経済・社会学	経済学学士	曾根隆
	国語	文学士	近藤忠義
	漢文		北村巖太郎

昭和7年度職員表(表1)

員表」に「教授／歴史・地理／文学士／布村安弘」と見える。1941（昭和16）年退職、北京へ赴いた。（『五十年史』によると、戦時下の機構変更があり、1942年には生徒が減少しており、ポスト削減が退職の一因であった。）

〈北京時代〉北京大学に勤務。通訳つきで古文書学等を講義。北京師範大学へも出講。終戦後1946（昭和21）年夏に帰国。

〈富山大学時代〉帰国後1年半、富山高校社会科教諭を勤め、1950（昭和25）年春富山大学教育学部教授に就任。前年創立の同学部の教員スタッフが弱体で、布村は招致されて社会科第1講座を担当。1964（昭和39）年、死去。享年65歳。

以上の略年譜からは、氏の内面を知る由もないが、少なくとも表向きは、大戦前後の歴史的潮流に逆らうことなく生きた人生であったことが理解される。

寄贈された本の蔵書印に拠ると、本の寄贈を受け、蔵書として受け入れたのは、1935（昭和10）年5月6日である。

この年は、本学国文科が募集停止となり（1950年に国語科が設置され、国文学の教育機関として再スタートする）、国威発揚の国家政策にしたがって、家政科が新設された年で、時局は、大戦に向かってますます厳しいものとなっていた頃である。そして、布村氏は、大量の和書を本学に残して、中国大陸に向けて旅立たれた。その胸中はどんなものだったのだろうか。残された中国史を中心とする漢籍342点という数が、歴史家としての見地からのものであることを暗示しているかのようにも思われる。

3 本学付属図書館所蔵和書の構成

本学付属図書館所蔵和書の構成の特徴は、実に幅広いジャンルの和書が網羅的に収蔵されていることである。

多数の女子教育書は、本学が1929年創立のわが国で最も古い公立短期大学で、前身が長野県女子専門学校であったため、女子教育に力を入れていたことの表われと考えられる。

収蔵されている女子教育書の特徴は、女重宝記や女大学の類が盛んに出版されるようになる近世中期

成澤榮壽氏は、『長野県短期大学図書館だより』第3号に布村安弘氏の経歴について調査された結果を報告されている。(6) 以下、成澤氏の調査に基づき、布村安弘教授の略歴を紹介する。

〈生い立ち〉1899（明治32）年富山県婦負郡東呉羽村（現富山市）に出生。県立富山中学校（現富山高校）を経て、東京高等師範学校（現筑波大学）を卒業し、旧制中学校の教諭を勤めた後、1926（大正15）年京都帝国大学文学部史学科に入学。

〈京都大学時代〉1929（昭和4）年京都大学を卒業、およそ一年副手として国史研究室に勤務。指導教員は日本近代歴史学の確立に寄与した三浦周行である。三浦の指示により長野県女子専門学校赴任。

〈長野県女子専門学校時代〉長野県女子専門学校に創立の翌年（1930年）に着任。『長野県女子専門学校 長野県短期大学五十年史』の「昭和7年度教

のものから明治期にいたるまでのものが揃っている
ということである。

天野晴子氏がこれらの女子教育書を閲覧し「長野
県短期大学付属図書館所蔵近世女子教育関係和書に
ついて」という報告書を記しておられる⁽⁷⁾。氏によ
ると一般に女子教育書は3つのスタイルに分類され
るという。

- 1) 教訓を記述した教訓型
- 2) 手紙文範の形式による手紙文例型
- 3) 1)と2)を合体したスタイルのもの

所蔵女子教育書の中で最古と思われるものは、後
掲書誌にもあげた『女訓抄』である。(写真1参照)。



『女訓抄』(写真1)

青山忠一氏によると『女訓抄』は「仮名草子女訓
物の権輿」であり、「女訓物として最も古いという
だけに止まらず、寛永14年(1637)刊の古活字本
の存在や、古写本の現存という事実を照らして、仮
名草子全体に中でもその成立の古さと云う点で屈指
もの」であるという⁽⁸⁾。浅井了意『可笑記評判』
(『仮名草子集成』第15巻、1994・12、東京堂出版)
の中で、「身もちの事は女訓抄につぶさなり」と記
されていることから、刊行当時から高い評価を得て
いたことが窺われるが、そのような女訓仮名草子の
嚆矢ともいえるべき『女訓抄』の寛永19年版が本学
に所蔵されていることから、女子教育書の構成に
細心の注意が払われていたことが推測される。天野

氏は次のようにコメントしている。⁽⁹⁾

日本の古代から中世にかけて形成されてきた
仏教的色彩の強い女子教育観も根強く、『女訓
抄』はこれを基調に、前述の儒教思想を入れな
がら、著述されている。御所蔵の寛永19年版
は、木版刷としては初版本の一つである。近世
前期にあたる17世紀頃に、盛んに出版された
これらの女訓書は、数冊ないし数十冊に及ぶも
のが多く、内容も高度で難しい。まだ文字文化
に親しむ階層が、武家ないし庶民の上層に限ら
れ、高価でも差し支えなく、身分に合った教養
が求められていたのだろう。

さらに、氏は、本学付属図書館所蔵の手紙文例型
の女子教育書および、教訓型と手紙文例型の融合型
のものについて、書名を挙げながら以下のように述
べておられる。⁽¹⁰⁾

手紙文例型

男子用の庭訓往来に倣って作成された『女庭訓
宝文庫』は、毎月往返1双・12か月の文例を
収録したいわば基本形である。さらに、『女用
文書宝鑑』のように、出産や結婚、旅行の饞別
や病気見舞いに至るまで、日常生活のあらゆる
場面において必要な手紙文例を集めたものも、
少なくない。

融合型

教訓や手紙文例、百人一首などの内容を盛り込
んで1冊にまとめた合本一たとえば『女用知恵
鑑』一に代表されるように、きわめて多彩な記
事や絵図が豊富に収録されている点を指摘して
おきたい。眺めるだけでも面白い工夫がこらさ
れており、現代のテキストとの相違を考えさせ
られる。

以上の指摘から、本学付属図書館所蔵の女子教育
書が、女子教育書の3つの型を踏まえたものである
ことがわかる。また、後掲分類目録からわかるとお
り、62点に及ぶ大量の女子教育書は、女子教育に
とって必要不可欠な情報を網羅している。体系的に

女子教育書が構成されていることが理解できる。

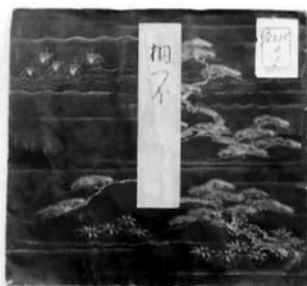
次に国語学国文学関係書の構成について考えてみたい。

前掲はじめに引用した『信濃毎日新聞』掲載の小西学務部長のコメントにも明らかなおと、国文学も国粹主義を謳う道具として時節に合致したものとみなされていた。

日本語や日本文学理解に欠かせない近世の国学者による『字音かなづかひ』『言葉のやちまた』といった国語学書や、現在の源氏学や伊勢学の基本図書でもある北村季吟『源氏物語湖月抄』や藤井高尚『伊勢物語新釈』などの国学者による注釈書が収蔵されている点も、本学設立時にわが国が国粹主義的時代であったことと関係しているだろう。ただし、これらの国語学書や注釈書は、国粹主義に合致する志向性を持ってはいても、純粋に国文学的立場からも優れたものが収められているということが理解できる。『奥の細道』と対で販売された『奥の細道菅菰抄』なども含め、国文学注釈の基本図書がそろえられているといえる。

また、特筆すべきは、漆塗り桐箱入りの嫁入り本と思われる『源氏物語』（写本）全54冊をはじめとし、浅黄色絹布表紙の美しい『源氏物語末摘花』（写本）、見開きに巻を象徴する場面を描き、和歌や解説が付された『源氏絵本藤の縁』、梗概書『源氏小鏡』、注釈書『湖月抄』『源氏物語忍草』といった『源氏物語』関係書の充実である。

嫁入り本『源氏物語』は、藍色表紙に金泥で、巻ごとにその内容にふさわしい花鳥風月画を描いた大変豪華なもので、また、保存状態も良好である（写真2参照）。



『源氏物語』「桐壺」（写真2）

『源氏物語』写本2種については、平林香織・呉羽長「長野県短期大学付属図書館所蔵『源氏物語』写本二種について」において翻刻と系統分析がなされている。⁽¹⁾

『源氏物語』のパロディ本である『偽紫田舎源氏』全13冊も美しい状態で所蔵されており、国文学研究史における『源氏物語』の位置の重要性について十二分な理解があったことが窺われる。そのような国文学関係書に関する見識の高さは、長大な『伊勢物語』注釈史の中から、現在の『伊勢物語』注釈書の基礎を形作った『伊勢物語新釈』が選定されて収蔵されている点からも理解できる。

また取合せ本ではあるが、『南総里見八犬伝』全106冊が揃っている。表紙や挿絵にも凝って刊行された滝沢馬琴渾身の読本『南総里見八犬伝』が全冊揃ったかたちで存在することは、国文学研究の基本としてテキストの完備ということが念頭に置かれていたことが想像できる。取合せ本であるからこそ全冊を完備しようとした収集者の意思を垣間見ることができるといえるかもしれない。

後掲分類表にある通り、国語学関係書は、音韻論、表記論、文法書、辞書、方言といったジャンルを網羅しており、国文学関係書も、和歌、俳諧、物語、演劇といった韻文学・散文学・劇文学を網羅している。すでに述べたとおり、女子教育書もあらゆるスタイルの女子教育に関する書物が収蔵されていたが、国語国文学関係書についても同様のことが指摘できる。

以上の考察から、本学付属図書館所蔵和書は、女子の高等教育機関としての設立趣旨に沿うかたちでの網羅的な構成を持ち、しかも国文学史において重

要な位置を占める図書を過不足なく有しているという特徴があることが明らかとなった。

4 おわりに

以上の調査により、本学付属図書館所蔵和書がたどった歴史やその構成上の特徴が明らかとなった。後掲分類表は、本学付属図書館和書のデータベースの基幹情報となるだろう。

今後、さらに、個々の和書のすべての書誌データの分析を行い、個々の和書の書誌学的位置づけを行う必要がある。また、データベースとして、すべての丁の正確な写真撮影、その画像データの保存と公開を行っていかねばならない。未翻刻のものから順次翻刻作業も進め、テキストデータを電子入力する必要もある。将来的には、ウェブ上での情報公開も視野に入れていかねばならないだろう。残された課題は多いが、本学付属図書館所蔵和書のデータベースを構築するために、さらに調査研究を行う必要がある。

本学付属図書館所蔵和書の分類

以下に、代表的なものの書誌を記す。作成にあたっては前掲太刀川氏の研究¹²⁾を参考にした。

しんはなつみ 新華摘〔登録番号 911.3 - 1〕

刊本 袋綴 大本 (26.4×18.8) 1巻1冊〔表紙〕縹色無地〔外題〕刷原題簽 中央「新華摘」〔柱刻〕ナシ〔内題〕「新花つみ」〔丁数〕全44〔行数〕9〔匡郭〕ナシ〔挿絵〕アリ〔用字〕漢字平仮名〔序〕アリ「天明四年月溪誌」〔跋〕ナシ〔刊記〕「寛政九年孟秋吉日／一條菱屋町林甚右衛門板」〔版〕寛政九版

〔備考〕(類) 俳諧(著) 与謝蕪村

これは、寛政9年(1797)に刊行された与謝蕪村の俳諧句文集である。そして、この本は、与謝蕪村本人が原稿と挿絵を描いた、美本で非常に貴重なものである。

おく ほそみち 奥の細道〔登録番号 911.32 - 5〕

刊本 袋綴 枡形本 (16.6×14.1) 1巻1冊〔表紙〕灰色蔓草模様〔外題〕(剝落)〔柱刻〕ナシ〔内題〕ナシ〔丁数〕全57〔行数〕8〔匡郭〕ナシ〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字平仮名〔序〕ナシ〔跋〕アリ「元禄七年素龍／元禄八年去来／明和七年蝶夢」〔刊記〕「寛政元歳酉仲秋再版／洛陽蕉門書林井筒屋庄兵衛／橋屋治兵衛」〔版〕寛政元版

〔備考〕(類) 俳諧(著) 松尾芭蕉

いがごえどうちゅうすごろく 伊賀越道中双六〔登録番号 912.4 - 4〕

刊本 袋綴 半紙本 (22.0×15.5) 1冊〔表紙〕縹色無地〔外題〕ナシ〔柱刻〕ナシ〔内題〕「伊賀越道中双六」〔丁数〕全103〔行数〕7〔匡郭〕ナシ〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字片仮名平仮名〔序〕ナシ〔跋〕ナシ〔刊記〕「天明三癸卯年四月廿七日／浪華山本九葉亭版／同玉水源治郎版／同紙屋與右衛門版／京寺町松原上町今井七郎兵衛版／江戸日本橋四日市松本平助版／大阪北濱西横堀船町加島屋清助版」〔版〕天明三版

〔備考〕(類) 浄瑠璃義太夫(著) 近松半二・近松加作

ふたつちようちゅうくわにつき 双蝶蝶曲輪日記〔登録番号 912.4 - 7〕

刊本 袋綴 半紙本 (22.0×15.0) 1冊〔表紙〕黒色無地〔外題〕刷原題簽 左肩 単郭「双蝶々曲輪日記」〔柱刻〕ナシ〔内題〕「双蝶々曲輪日記 仇九場」〔丁数〕全96〔行数〕7〔匡郭〕ナシ〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字片仮名平仮名〔序〕〔跋〕〔刊記〕「寛延二己巳年七月廿四日」〔版〕寛延二年版

〔備考〕(類) 浄瑠璃義太夫(著) 竹田出雲・三好松洛・並木千柳(成) 寛延二年初演

げんじものがたり 源氏物語〔登録番号 913.36 - 2 - 1~54〕

写本 列帖 枡形本 (16.8×18.2) 54巻54冊〔表紙〕濃紺地金蒔絵草木模様〔外題〕書原題簽 中央〔柱刻〕ナシ〔内題〕ナシ〔丁数〕(省略)〔行数〕12〔匡郭〕ナシ〔挿絵〕ナシ〔用字〕漢字平仮名〔序〕ナシ〔跋〕ナシ〔刊記〕ナシ

〔備考〕(別) 源氏・光源氏物語(類) 物語

なんそうさとみほっけんでん 南総里見八犬伝〔登録番号 913.56 - 1 - 1~106〕

刊本 袋綴 半紙本 (22.7×15.8) 9 輯 106 冊
〔表紙〕仔犬模様 (輯巻により色模様異なる) 〔外題〕
刷原題簽 双郭 左肩 「里見八犬伝」〔柱刻〕ア
リ 〔内題〕「南総里見八犬伝」〔丁数〕 (省略) 〔行数〕
11 〔匡郭〕单郭 (18.2×13.7) 〔挿絵〕アリ (淡彩)
〔用字〕漢字平仮名〔序〕アリ 〔跋〕ナシ 〔刊記〕
(省略)

〔備考〕 (別) 里見八犬伝 (類) 読本 (著) 滝沢馬
琴 (1～5 輯の 25 冊は三青堂、6～8 輯の 23 冊は
湧泉堂、8 輯以後の 58 冊は文溪堂)

^{わみょうるいじゅうしょう}
和名類聚抄 〔登録番号 813-13-1～5〕

刊本 袋綴 大本 (25.6×19.3) 20 巻 5 冊 〔表紙〕
黄土色横縞 〔外題〕刷原題簽 左肩 单郭「和名類
聚抄 一(巻数)」〔柱刻〕「魚尾 和名 丁数 魚尾」
〔内題〕「倭名類聚鈔」〔丁数〕全 53 (二 45 三 41
四 39 五) 〔行数〕13(序 10) 〔匡郭〕单郭(23.1×
17.6) 〔挿絵〕ナシ 〔用字〕漢字片仮名〔序〕有り
「元和三年丁巳冬十一月」〔跋〕ナシ 〔刊記〕「書林
大坂心齋橋筋順慶町波川清右衛門／皇都書林 三
条富小路北升屋勘兵衛」〔版〕不明
〔備考〕 (別) 和名類聚鈔／和名抄 (類) 辞書

^{ことば}
詞のやちまた 〔登録番号 815.7-5〕

刊本 袋綴 大本 (25.3×17.8) 2 巻 1 冊 (上下
合冊) 〔表紙〕淡縹無地 〔外題〕刷原題簽 左肩
单郭「(剥落) またか」〔柱刻〕○やちまた ○丁数
〔内題〕「詞八衢 (上・下)」〔丁数〕全 108 〔行数〕
10 (序 6／跋 6) 〔匡郭〕单郭 (20.0×14.5) 〔挿絵〕
ナシ 〔用字〕漢字片仮名平仮名〔序〕有り「文化三
年五月十三日／尾張植松有信」〔跋〕有り 〔刊記〕
「文化五年戊辰之春発行／製本弘所 書林／江戸日
本橋通壱町目須原屋茂兵衛／大坂心齋橋筋唐物町河
内屋太助／勢州松坂日野町柏屋兵助／京都寺町通松
原下ル町勝村治右衛門／同御幸町通御池下ル町菱屋
孫兵衛」〔版〕文化五版
〔備考〕 (別) 詞八衢 (類) 語学 (著) 本居春庭
(成) 文化三刊

^{じょくしんしょう}
女訓抄 〔登録番号 159.6-1-1～3〕

刊本 袋綴 大本 (27.7×17.6) 3 巻 3 冊 〔表紙〕

藍色無地 〔外題〕刷原題簽 双郭 左肩 「女訓抄」
〔柱刻〕「女訓抄卷上 (巻中・巻下)」〔内題〕「女訓
抄卷上 (巻中・巻下)」〔丁数〕全 122 〔行数〕11
〔匡郭〕单郭 (21.8×15.9) 〔挿絵〕ナシ 〔用字〕漢
字平仮名〔序〕ナシ 〔跋〕ナシ 〔刊記〕「寛永十九
年孟秝吉日／三条菱屋町林甚右衛門板」〔版〕寛永
十九版

〔備考〕 (類) 教訓

この本は本学付属図書館蔵書の中で、最も古いと
思われる和書である。

^{おんなだいがくたからばこ}
女大学宝箱 〔登録番号 159.6-44〕

刊本 袋綴 半紙本 (22.8×15.5) 1 巻 1 冊 〔表
紙〕薄藍色無地 〔外題〕刷原題簽 双郭 左肩「女
大学宝箱 全」〔柱刻〕「女」〔内題〕「教草 女大学」
〔丁数〕全 51 〔行数〕5 〔匡郭〕单郭 (18.6×13.0)
〔挿絵〕アリ 〔用字〕漢字平仮名〔序〕ナシ 〔跋〕
ナシ 〔刊記〕「安永二年癸巳仲秋／中島勘兵衛板
／安永七年戊戌六月再版／寛政四年壬子九月改刻／
京都弘所書林／山本長兵衛」〔版〕寛政四版
〔備考〕 (類) 教訓・往来 (著) 貝原益軒 (『女大学』
の通行版)

^{おんないましめわくん}
女誠和訓 〔登録番号 159.6-13〕

刊本 袋綴 半紙本 (20.1×15.3) 1 巻 1 冊 〔表
紙〕黄色網目 〔外題〕刷原題簽 双郭 左肩「女誠
和訓 全」〔柱刻〕ナシ 〔内題〕「女誠和訓」〔丁数〕
全 20.5 〔行数〕9 〔匡郭〕单郭 (17.2×13.1) 〔挿絵〕
ナシ 〔用字〕漢字片仮名平仮名〔序〕ナシ 〔跋〕ナ
シ 〔刊記〕「明治七年七月／同年十二月刻成／尾張
名古屋門町前町壱丁目 秋田屋源助発兌」〔版〕明治
七版
〔備考〕 (類) 教訓 (著) 細野栗斎

長野県短期大学所蔵和書分類表

1. 俳諧関係

分類番号	書名	ヨミ	別名	分類
911.19 1	あづまなまり	アズマナマリ	狂文あづまなまり・狂文吾妻流・狂文吾妻郡方里	狂文
911.19 2	1-2 我おもしろ	ワガオモシロ	岡持家我おもしろ	狂歌
911.19 3	1-2 徳和歌後万載集	トクワカゴマンザイシュウ		狂歌
911.2 1	1-2 俳諧天爾波抄	ハイカイテニハシヨウ	俳諧天爾波抄	俳諧
911.3 1	新草摘	シンハナツミ		俳諧
911.3 11	1-3 俳諧寂呆	ハイカイサビシヨウ	寂呆	俳諧
911.3 12	1-5 俳諧御傘	ハイカイゴサン	御傘	俳諧
911.3 35	1-2 梅室家集	バイシツカシュウ		俳諧
911.3 36	1-2 梅室付合集	バイシツツケアイシュウ	梅室大人附句抜萃	俳諧
911.3 37	1-2 藤太句集	リョウタクシュウ		俳諧
911.3 38	1-2 嵐雪句集	ランセツクシュウ		俳諧
911.3 39	1-5 風俗文選	フウゾクモンゼン		俳諧
911.3 40	1-5 俳諧一葉集 前篇	ハイカイイチヨウシュウ ゼンペン		俳諧
911.3 40	6-9 俳諧一葉集 後篇	ハイカイイチヨウシュウ コウヘン		俳諧
911.3 41	おらが春	オラガハル		俳諧
911.32 3	野ざらし紀行抄	ノザラシキコウシヨウ	野ざらし紀行翠園抄・野鶴抄	俳諧
911.32 4	1-2 俳諧芭蕉談	ハイカイバショウダン	芭蕉談	俳諧
911.32 5	奥の細道	オクノホソミチ		俳諧
911.32 6	1-2 奥の細道芭蕉抄	オクノホソミチスガゴモシヨウ		俳諧
911.32 12	1-2 俳諧七部集	ハイカイシチブシュウ	七部集・芭蕉七部集	俳諧
911.32 14	1-2 俳諧七部集拾遺	ハイカイシチブシュウシュウイ		俳諧

2. 浄瑠璃関係

分類番号	書名	ヨミ	別名	分類
912.4 1	平仮名盛衰記	ヒラガナセイスイキ		浄瑠璃義太夫
912.4 2	菅原伝授手習鑑	スガワラデンジュテナライカガミ		浄瑠璃義太夫
912.4 3	箱根重験覚仇討	ハコネレイゲンイザリノアダウチ		浄瑠璃義太夫
912.4 4	伊賀越道中双六	イガゴエドウチュウソゴロク		浄瑠璃義太夫
912.4 5	妹背山婦庭訓	イモセヤマオンナテイキン		浄瑠璃義太夫
912.4 6	神靈矢口渡	シンレイヤグチノワタシ		浄瑠璃義太夫
912.4 7	双蝶々曲輪日記	フタツチヨウチヨウクルワニッキ		浄瑠璃義太夫
912.4 8	絵本大功記	エホンタイコウキ		浄瑠璃義太夫
912.4 9	伊賀越乗掛合羽	イガゴエノリカケガッパ		浄瑠璃義太夫
912.4 10	本朝廿四孝	ホンチョウニジュウシコウ		浄瑠璃義太夫

3. 国語国文学関係

分類番号	書名	ヨミ	別名	分類
913.22 2	1-2 参考伊勢物語	サンコウイセモノガタリ		物語・考証
913.3 1	1-15 宇治拾遺物語	ウジシュウイモノガタリ		説話
913.32 1	1-6 伊勢物語新釈	イセモノガタリシンシャク		注釈
913.35 1	1-6 落窪物語	オチクボモノガタリ	おちくぼ・落久保物語	物語
913.36 2	1-54 源氏物語(写本)	ゲンジモノガタリ	源氏・光源氏物語	物語
913.36 2	55 源氏物語未摘花(写本)	ゲンジモノガタリスエツムノハナ		物語
913.36 4	1-3 源氏絵本 藤の縁	ゲンジエホンフジノユカリ	絵本 藤の縁	物語
913.36 10	1-5 源氏物語 忍草	ゲンジモノガタリシノブグサ	源氏忍草・源氏忍草・しのぶくさ・源氏物語抄	注釈
913.36 11	1-3 源氏小鏡	ゲンジコカガミ	源氏集・源氏集・源氏開書・源氏抄書・げんじのうち小かざみ・源氏之目録次第・源氏保伝書・源氏木芙蓉・源氏目録・源氏物語小鏡・源氏物語抄解・源氏ゆかりの肝要・源氏要文抄・源氏略章	物語

913.36 12	1-5 源氏物語忍草	ゲンジモノガタリシノブグサ	源氏忍草・源氏忍草・しのぶくさ・源氏物語抄	注釈
913.38 1	1-5 狭衣	サゴロモ	狭衣物語・さころも	物語
913.39 1	1-21 栄花物語	エイガモノガタリ	栄花物語・世継・世継物語	歴史物語
913.39 2	1-9 栄花物語	エイガモノガタリ	栄花物語・世継・世継物語	歴史物語
913.4 17	1-3 保元物語	ホウゲンモノガタリ	保元合戦物語・保元記	歴史物語
913.4 20	1-12 平家物語	ヘイケモノガタリ	平治記	軍記物語
913.4 38	1-40 目録 太平記	タイヘイキ		軍記物語
913.4 41	1-10 曾我物語	ソガモノガタリ		軍記物語
913.4 43	1-3 平治物語	ヘイジモノガタリ	平治記	軍記物語
913.5 2	1-4 春色辰巳園	シュンシヨクツツミノソノ	梅野余興春色辰巳園	人情本
913.5 4	棠陰比事物語	トウインヒジモノガタリ	棠陰比事	仮名草子
913.51 1	1-2 薄雪物語	ウスユキモノガタリ	うすゆき物語・うすゆき物語	仮名草子
913.51 2	1-10 源平軍物語	ゲンペイイクサモノガタリ		仮名草子
913.52 1	1-5 槽古三味線	ケイコシャミセン		滑稽本
913.52 7	1-5 世間旦那氣質	セケンダンナカタギ	町家繁栄世間旦那氣質	浮世草子
913.53 1	起承転合	キショウテンゴウ		洒落本
913.53 2	起承転合	キショウテンゴウ		洒落本
913.53 3	通言総離	ツウゲンソウマガキ	総離	洒落本
913.53 4	船頭深話	センドウシンワ	辰巳編言第二集船頭深話	洒落本
913.54 1	傾城買四十八手	ケイセイカインジュウハツテ		洒落本
913.54 2	合子洞房	ムスコベヤ	息子部屋・無粋語 曆夜	洒落本
913.54 3	1-12 春色伝家の花	シュンシヨクデンカノハナ	春色伝家の花	人情本
913.55 1	1-18 東海道中膝栗毛	トウカイドウチュウウヒザクリゲ	道中膝栗毛・浮世道中膝栗毛	滑稽本
913.55 1	19-43 続膝栗毛	ゾクヒザクリゲ	道中膝栗毛・浮世道中膝栗毛	滑稽本
913.56 1	1-106 南総里見八犬伝	ナンソウサトミハクケンデン	里見八犬伝	読本
913.57 1	1-3 莫切自根生木	キルナノネカラカネノナルキ		黄表紙
913.58 1	1-13 修紫田舎源氏	ニセムラサキイナカゲンジ	田舎源氏	合巻
913.7 1	1-6 御伽百物語	オトギヒヤクモノガタリ	近代御伽百物語 古今奇談御伽百物語	浮世草子
810.1 5	1-3 玉の緒よりそへ	タマノオヨリソヘ		語学
810.2 7	童子字尽安見	ドウシジツクシアンケン		辞書
810.3 1	雑語訳解	ガゴヤクカイ	雑語訳解	語学
810.3 2	和字解	ワジカイ		語学
810.3 3	詞彙新釋	シヨウシンガ	詞彙新釋初編	辞書
811.1 1	1-4 同文通考	ドウブンツウコウ	書契文談・文字考	文字
811.1 2	音訓国字格	オンクンカナヅカイ		文法
811.3 1	1-2 神字日文伝	カンナヒフミデン		文字
811.3 1	3 疑字篇(神字日文伝付録)	ギジヘン		文字
811.56 1	雑言仮名格	ガゲンカナヅカイ	字音かなづかい	語彙
811.56 2	1-3 音韻仮字用例図	オンインカナヅカイ	音韻仮字用例図并附説	音韻
811.56 3	字音かなづかひ	ジオンカナヅカイ		語学
811.56 4	ふり分かみ	フリワケガミ	ふりわけかみ	歌学
811.56 5	1-5 和字正蓋抄	ワジシヨウランシヨウ	和字正蓋抄	語学
813 13	1-5 和名類聚抄	ワミョウレイジュウシヨウ	和名類聚抄	辞書
813.5 1	1-13 雑言集覧	ガゲンシュウラン		辞書
813.6 1	1-3 山彦冊子	ヤマビコウシ	雑語考・山彦冊子	語彙
813.6 2	1-3 鐘のひびき	カネノヒビキ	鐘通比備起	語学
815.4 1	1 活語雑話	カツゴザツワ		語学

815.4	2	2	活語雑話 二篇	カツゴザツワ		語学
815.7	2	1-7	詞のたまのを	コトバノタマノオ		語学
815.7	3	1-2	詞のやちまた	コトバノヤチマタ	詞八衢・言葉のやちまた	語学
815.7	5		詞のやちまた	コトバノヤチマタ	詞八衢・言葉のやちまた	語学
815.7	6	1-3	詞のやちくさ	コトバノヤチクサ		語学
815.7	7	1-5	詞のちかみち	コトバノチカミチ		語学
815.7	9	1-3	源語梯	ゲンゴテイ		注釈・辞書
815.7	10	1-10	詞の塵芥	コトバノチリヒジ		歌学
815.7	11		古言梯再考	コゲンテイサイコウ		語学
815.7	12	1-2	紐鏡中の心	ヒモカガミナカノココロ		語学
815.7	13		玉あられ	タマアラル		語学
815.7	14	1-2	助辞本義一覽	ジョジホンギイチラン		語学
815.7	15	1-2	辞格考抄本	ジカクコウショウホン		語学
816.6	1	1-2	消息文例	ショウソクブンレイ		往来
818	1	1-5	物類称呼諸国方言	ブツルイショウコショウコクホウゲン		方言・辞書
821.1	5	1-2	磨光韻鏡 後篇	マコウインキョウコウヘン		音韻
821.1	6		漢字三音考	カンジサンオンコウ		音韻
910.22	9	1-44	古事記伝	コジキデン		注釈
910.22	9	45-47	古事記伝 目録	コジキデンモクロク	古事記伝注釈目録	索引
911.1	11	1-2	歌格類選	カカクルイセン		歌学
911.1	11	2の1-2	続歌格類選	ゾクカカクルイセン		歌学
911.1	33		懐中抄(写本)	カイチュウショウ		歌学
911.1	37	1-20	袖中抄	ショウチュウショウ		歌学
911.1	38	1-3	耳底記	ニテイキ	和歌奥義抄	歌学
911.1	39		歌学提要	カガクテイヨウ		歌学
911.1	40		驚箱極秘抄(写本)	サギバコゴクヒショウ	悦目抄・引括抄・佚名抄・上秘抄・更科之記・基俊秘抄・基俊和歌之事・冷泉家歌学抄・和歌心撰集・和歌之書・和歌秘伝・和良日久佐	歌学
911.1	41		詠歌大概抄	エイガタイガシヨウ	詠歌大概開書・大綱抄・大綱記	歌学
911.1	47		佐喜草	サキクサ		歌学
911.11	1	1-3	日本紀歌通解	ニホンギウタノカイ	日本紀歌解規乃落葉	和歌・注釈
911.12	2	1-32	万葉集略解	マンヨウシュウリヤクゲ		注釈
911.12	7	1-20	万葉和歌集	マンヨウワカシュウ	万葉和歌集校異・万葉集	和歌
911.12	12	1-28	万葉代匠記(写本)	マンヨウダイシヨウキ	万葉代匠記	注釈
911.12	17	1-4	万葉集見安補正	マンヨウシュウミヤスホセイ	万葉集目安補証	注釈
911.12	75	1-2	万葉集類集抄	マンヨウシュウレイヨウシュウ	万葉集類集抄	和歌
911.12	91		万葉用事格	マンヨウシュウヨウジカク	万葉仮字梯	語学
911.13	2	1-6	古今集遠鏡	コキンシュウトオカガミ	古今和歌集遠鏡	和歌・注釈
911.14	12	1-5	宇比麻奈備	ウヒマナビ	百人一首初学	和歌
911.14	17	1-9	尾張乃家色	オワリノイエツト	新古今尾張乃家色	和歌・注釈
911.14	18	1-5	美濃の家づと	ミノノイエツト	新古今美濃の家づと	和歌・注釈
911.14	18	6-8	美濃の家づと折添	ミノノイエツトオリソエ	新古今美濃の家づと折添	和歌・注釈
911.14	19	1	新古今和歌集	シンコキンワカシュウ	新古今集	歌集
911.15	1		江戸職人歌合	エドシヨクニンウタアワセ	江戸職人歌合	和歌
911.6	1		催馬楽神楽秘注	サイバラカグラヒチュウ	催馬楽神楽注秘抄	雑学・注釈
913.36	1	1-60	湖月抄	コグツショウ	源氏物語湖月抄	物語・注釈
913.36	7	1-2	紫文製錦	シブンセイキン		和文
914.5	1	1-23	常山紀談	ジョウザンキダン		歴史
914.5	1	24-28	常山紀談拾遺	ジョウザンキダンシュウイ		歴史
914.5	3	1-2	還魂紙料	スキカエシ(カンコンシリョウ)		随筆

914.5	4		宇比山踏	ウヒヤマフミ	うい山ふみ・宇比乃山踏	国学
914.5	5	1-2	松屋文集	マツヤブンシュウ		和文
914.5	5	3-5	松屋文後集	マツヤブンシュウコウシュウ		和文
914.5	10	1	万葉千紅	バンシセンコウ		狂歌
914.5	10	2	千紅万紫	センコウバンシ	千紅万紫 初集	狂歌
121.4	16		国号考	コクゴウコウ		国学
121.2	8	1-5	職台雑話	シヨク(シュン)ダイザツワ	嶋巢先生随筆	随筆

4. 女子教育書

分類番号	書名	ヨミ	別名	分類
152.6	10	絵本忠経	エホンチュウキョウ	教訓
152.6	3	1-3 孝女操種	コウジョミサオグサ	孝女操草 教育
152.6	4	孝女起野伝	コウジョキノデン	江州高官孝女起野伝 伝記
152.6	7	和漢二十四貞女	ワカンニジュウシテイジョデン	伝記
152.6	8	二十四孝伝	ニジュウシコウデン	教訓
159.3	2	女庭訓宝文庫	オンナテイキンタカラバンコ	往来
159.3	3	1-3 女家訓	オンナカクン	往来
159.5	1	女童子教	オンナドウジキョウ	女実語教 教訓
159.5	2	1-2 童蒙家訓	ドウモウカクン	万民必用童蒙家訓 教訓
159.5	3	1-5 世説見談	セセツジダン	説話
159.5	4	ねむりさまし	ネムリサマシ	ねふりさまし 教訓
159.6	1	1-3 女訓抄	ジョクンショウ	教訓
159.6	2	1-3 女鏡秘伝書	オンナカガミヒデンシヨ	女鏡・をんなかがみ 往来
159.6	3	女敵討(写本)	オンナカクキウチ	伝記
159.6	4	女実語教續費	オンナジツゴキョウコガネブクロ	往来
159.6	5	女訓三乃道	ジョクンサンノミチ	教草 往来
159.6	7	女今川姫小松	オンナイマガワヒメコマツ	往来
159.6	8	女今川の子宝	オンナイマガワニシキノコダカラ	往来
159.6	10	女千代のたから	オンナチヨノタカラ	往来
159.6	12	1-5 女重宝記	オンナチヨウホウキ	教育
159.6	15	女寺子調法記	オンナテラコチヨウホウキ	往来
159.6	16	女式目録草	オンナシキモクカガミグサ	女式目・嘉永新刻女式目録草・万家用婦女必読女式目 往来
159.6	17	女用智恵鑑	オンナチエカガミ	往来
159.6	18	女遊学操鑑	オンナユウガクミサオカガミ	百人一首女用文章女遊学操鑑 往来・作法
159.6	22	日課念仏士女訓	ニツカネンブツシジョクン	教訓
159.6	29	1-2 嫁入談合柱	ヨメイリダンゴウバシラ	礼法
159.6	30	大和女誠	ヤマトジョカイ	教訓
159.6	31	妻鑑	ツマカガミ	無往妻鑑 教訓
159.6	32	1-6 婦人寿草	フジンコトブキグサ	婦人ことふき草 医学
159.6	33	神国女訓抄	シンコクジョクンショウ	教訓
159.6	34	1-16 姫鑑	ヒメカガミ	教訓給人ひめかみ・教訓給人比売鑑・比売鑑 教訓
159.6	37	我津恵	ワガツエ	我杖・我津衛 心学
159.6	39	1-5 からきぬ	カラキヌ	教訓
159.6	40	貞婦染女行状	テイフツメギョウジョウ	現存貞婦染行状・貞婦染行状 伝記
159.6	43	1-3 絵本姫小松	エホンヒメコマツ	教訓
159.6	44	女大学宝箱	オンナダイガクタカラバンコ	教育
159.7	1	前訓	ゼンクン	男子女子前訓 教訓
159.8	19	1-2 女小学	オンナショウガク	教訓
281.09	3	1-5 三国妖婦伝(写本)	サンコクヨウフデン	往来
281.09	5	諸家秘録婦女勇義伝(写本)	ショウケヒロクフジョウユウギデン	伝記

To Construct the Database of Japanese Old Books
of Nagano Prefectural College Library

281.09	6	1-8	古列女伝	コレツジョデン		伝記
281.09	10	1-2	続列女伝	ゾコレツジョデン		伝記
281.09	14		近世列女伝(写本)	キンセイレツジョデン		伝記
381.1	131	1-3	女子風俗化粧秘伝	ジョシフウゾクケシヨウヒデン	化粧秘伝	風俗
815.9	2		雲井の玉づき	クモイノタマズサ		往来
815.9	4		女要撰文	オンナヨウミサオグサ		往来
816.5	1		女中庸瑠璃箱	オンナヨウメノウハコ		往来
816.5	2		女用大全	オンナヨウタイゼン		往来
816.5	3		女用文章宝鑑	オンナヨウブンシヨウタカラカガミ		往来
911.14	13		列女百人一首	レツジョヒヤクニンイツシュ	烈女百人一首	和歌
911.14	15		女教桃花百人一首曲水宴	トウカヒヤクニンイツシュキョクスイノエン	桃花百人一首曲水宴	和歌
911.14	16		源氏百人一首	ゲンジヒヤクニンイツシュ		和歌
911.5	3	1-10	和論語	ワロンゴ	倭論語	教訓
152.6	1		越後孝婦伝	エチゴクウフデン		伝記
152.6	11		経典余師女孝経	キョウテンヨシオンナコウキョウ		教訓
383.1	153	1-4	歴世女装考	レキセイジョウコウ		風俗
384.9	1		新吉原細見	シンヨシワラサイケン		風俗
791.1	2	1-2	煎茶仕用集	センチャシヨウシュウ	青湾茶話	茶道
791.2	1	1-4	茶事集覧	チャジソウラン		茶道
791.2	4		古今茶人系譜	ココンチャジンケイフ	茶人系譜	茶道
791.2	6	1-2	茶家静古謀 初篇	チャカスイコシュウ(ザツ)シヨヘン	茶家静古集	茶道
791.2	7		茶人花押戯	チャジンカオウソウ	古今茶人花押戯	茶道

5 明治期の和本

分類番号	書名	ヨミ	別名	分類
152.6	6	明治二十四孝	メイジニジュウシコウ	教訓
152.6	9	明治孝節録	メイジコウセツロク	伝記
159.6	6	1-2 慈母教草	ジボオシエグサ	家事
159.6	13	女誠和訓	オンナイマシメワタン	教訓
159.6	14	1-2 女のしつけ	オンナノシツケ	教訓
159.6	20	教の玉章(上巻)	オシエノタマズサ	女童修身教の玉章・女童教の文章
159.6	21	敵討女忠信記(写本)	カタキウチオンナチュウシンキ	伝記
159.6	26	貞操鑑女房心得	ミサオカガミニヨウボウココロエ	教訓
159.6	27	1-2 日本女鑑	ニホンオンナカガミ	教訓
159.6	28	新選女大学	シンセンオンナダイガク	教訓
159.6	41	北斎女今川	ホクサイオンナイマガワ	教訓
159.6	42	小笠原諸礼大全	オガサワラシヨレイタイゼン	礼儀・作法
160	15	大日本国教論	ダイニホンコウキョウロン	仏教
281.1	4	諸侯烈婦人伝	ショコウレツフジンデン	有不为斎叢甲集
281.1	7	本朝列女伝	ホンチョウレツジョデン	伝記
281.1	8	本朝列女伝	ホンチョウレツジョデン	伝記
281.1	13	1-3 劉向列女伝	リュウコウレツジョデン	標注劉向列女伝・参訂劉向列女伝
791	3	煎茶綺言	センチャキゲン	煎茶会法式書
791.2	5	1-2 茶式湖月抄	チャシキコグツシヨウ	茶道
810.3	6	詞の果打聴	コトバノシオリウイギキ	音韻・文字
811.5	1	1-2 仮字考	カナコウ	文字
811.6	6	かなづかひ教科書	カナヅカイキョウカシヨ	音韻・文字
812	2	言葉の根調	コトバノネシラベ	語学
815	9	1-2 詞乃久美立	コトバノクミタテ	文法
815.5	1	形状言五種活用図	ケイジョウゲンゴシヤカツウズ	文法
815.7	1	1-6 あゆひ抄	アユイシヨウ	文法

815.7	4	1-2	詞の直路	コトバノタダジ		文法
815.7	8	1-3	詞通路	コトバノカヨイジ	詞乃通路・言葉のかよひち	語学
815.9	5		世界婦女往来竹田	セカイオンナオウライタケダ		教育
818	2	1-5	物類称呼	ブツルイシヨウコ	諸国方言物類称呼・物類称呼諸国方言	方言・辞書
910.2	7	1-3	古訓古事記	コクンコジキ		研究書
910.3	25	1-3	西行物語	サイギョウモノガタリ		物語
911.1	35	1-2	短歌撰格	タンカセンカク		詩歌
911.1	36	1-2	長歌撰格	チョウカセンカク		詩歌
911.1	22		万葉山常百首解	マンヨウヤマトシヤクシユカイ		評釈
911.1	14		小倉百人一首	オクラヒヤクニンイツシュ		詩歌
911.3	34	1-2	藤村論文集	フソンウンブンシュウ	藤村文集	俳諧
911.3	13	1-2	桔尾花	カレオバナ		詩歌
913.3	12	1-2	竹とり物語	タケトリモノガタリ		物語
913.4	1	1-6	十訓抄	ジッキンシヨウ		物語
914.5	1	1-4	骨董集	コトウシュウ		隨筆
915.3	1	1-2	上佐日記考証	トサニツキコウシヨウ		紀行
915.4	1	1-2	紫式部日記傍注	ムラサキシキブニツキボウチュウ		注釈
915.5	1	1-2	白雲日記	シラクモニツキ		隨筆
919.5	1	1-5	和解女四書	ワゲオンナシヨ		教訓

(注)

* 書誌の作成にあたっては、以下を参考とした。

- 『補訂版 国書総目録』全8巻 1963~1972年岩波書店
- 国立国会図書館図書編『国立国会図書館蔵書目録 明治期』全6編 1994年 紀伊国屋書店

- 長野県短期大学大学史編纂委員会 『長野県女子専門学校長野県短期大学五十年史』 1979年10月 長野県短期大学
- 同上
- 太刀川清「所蔵和書について」『長野県短期大学付属図書館 図書館だより』第2号 1993年10月
- <http://www.pret.nagano.jp/kikaku/josei/da/index.htm>
- 太刀川清「長野県短期大学付属図書館和書解題(一)」『長野県短期大学紀要』第48号 1993年12月
- 成澤榮壽「本学館所蔵和書寄贈者 布村安弘氏について」『長野県短期大学付属図書館 図書館だより』第4号 1994年10月
- 天野晴子「長野県短期大学付属図書館所蔵近世女子教育関係の和書について」『長野県短期大学付属図書館 図書館だより』第3号 1994年1月
- 青山忠一『仮名草子女訓文芸の研究』1982年2月 桜楓社
- 前掲(7)
- 同上
- 平林香織・呉羽長「長野県短期大学付属図書館所蔵『源氏物語』写本二種について」『長野県短期大学紀要』第54号 1999年12月
- 前掲(5)及び太刀川清「長野県短期大学付属図書館和書解題(二)」『長野県短期大学紀要』第49号 1994年12月